

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム 春
(ユニット名)	1階
所在地 (県・市町村名)	静岡県沼津市岡一色450-1
記入者名 (管理者)	多賀 豊子
記入日	平成 21 年 7 月 31 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設時に職員全員で作られた運営理念・倫理規定が10項目ある。	○	理念の実現を継続して行なっていく。
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を玄関のところに掲げ、誰もが見ることのできる様設置してあり、より良い介護をめざし、各種委員会にて検討を行っている。	○	現在活動している各種委員会を中心にケアの質の向上を行っていく。
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族会と共に、地域の方への認知症の理解を深める為、年二回認知症サポーター講座を開催している。現在、認知症の理解にとどまっておらず、理念に対する浸透までは至っていない。	○	今後、家族会や運営推進会議の中に理念を説明する機会を設け、地域へ広めていきたい。
2. 地域との支えあい				
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近隣との挨拶はかわすようにしているが、気軽に立ち寄ってはもらえていない。	○	8月1日の夏祭りにホームを開放し、町内会への誘いもしていく。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	門池まつりへの参加や、自治会組長会議へ出席し、運営推進会議や認知症サポーター講座開催のお知らせを地域へ行い、地域の方が来て頂ける機会も設けている。	○	今後、更に多くの地域の方々が認知症サポーター講座や夏祭りに参加され、地域交流の活性化につなげていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の方は、まだ若い方が多くまだまだ自活できている方が多い為事業所に対する相談・質問等は残念ながらまだない。	○	行事等を通し、地域との交流を行っていきながら、より相談のしやすい関係づくりを行っていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は日々努力しているが、末端の職員までは、なかなか理解できていない。	○	日常の業務の見直しの機会として、ケアの質の向上へつなげていきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	各種委員会での取り組み状況や、行事の予定等の報告を行い、防災訓練の避難場所への道順等、自治会の方よりアドバイスして頂いている。	○	地域の方々の声を、より多く聞くことができるよう、開放する機会を更に設け、サービスの質の向上につなげていきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	月1回、自治会組長会議へ管理者が出席し、地域との情報交換を行なっている。	○	今後も機会があれば、管理者だけでなく職員も地域の活動に参加しながら、市町村との連携を密にしていきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	ホーム全体では、学ぶ機会は無いため、どの入居者に必要なのか判断できていない。	○	研修で学ぶ機会を設け、制度の必要な入居者には支援していきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員一人ひとりが虐待に対し理解しており、行われていない。	○	職員の虐待に対する意識が薄れてしまわないよう、継続的に研修等を行っていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p> <p>現在、管理者が行っている。</p>	○	契約に関し、今後も継続して管理者が行なっていく。
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p> <p>苦情が上がった場合、ユニット内で対応できる内容であれば、ミーティングやカンファレンスで話し合い改善し、それでも不可能な場合、管理者・苦情対策委員会にて対策を講じている。苦情の内容は運営推進会議にて地域の自治会に内容を報告している。</p>	○	今後も苦情内容を日常のケアに活かしながら、よりよいケアを目指していく。また、地域への報告も継続して行なっていく。
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p> <p>毎月家族への手紙を、預かり金出納帳・領収書のコピーを添えて家族へ郵送している。家族への手紙では、その入居者一人ひとりに対し、日常の様子などを手書きにて行なっている。しかし、職員の異動に関しては報告を行っていない。</p>	○	今後も継続して、預かり金の報告や入居者の日常の様子を行なっていく、家族との信頼関係を維持していきたい。
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p> <p>運営推進会議や家族会にて、家族の意見の聞き取りを行なっている。また、苦情が出た際、苦情対策委員会にて対策を講じ、対応している。</p>	○	運営推進会議や家族会等の家族からの意見を聞く機会を継続して設け、そこでの意見をケアに活かしていきたい。
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p> <p>管理者に対し、なかなか意見・提案ができる雰囲気ではなく、トップダウンの指示が多いと感じる。</p>	○	管理者に意見を言いやすいよう、また、指示の統一化を口頭でなく書面にて図っていききたい。
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p> <p>行事等に必要の変則勤務は、なかなかユニットごとには認められていない。</p>	○	柔軟な変則勤務をユニットごとに必要に応じて、行えるようにしていきたい。
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p> <p>会社側としては、それなりの努力はしていると思うが、離職希望は本人の考えなので、止めることは難しい。利用者への配慮はできるだけ努力している。</p>	○	今後も異動・離職者があった場合、利用者への配慮は継続していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修は年1回程度行っており、外部研修・講演会は各職員の興味のあるものに、公休を使用して参加している。	○ 今後も、内部研修や外部の講師による講演会等を会社で開催してもらえると良い。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は、たまに他ホームとの交流の機会があるようだが、ほとんどの職員は同系列のホームとの交流が無いように感じる。	○ せめて、同系列のホームの職員との交流だけでも行い、情報の交換をしていきたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	行われていない。また、長期休暇が取りにくい。	○ 長期休暇を取りやすい職場環境にしていきたい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	参加したい講演会・研修があっても希望休の関係で参加できない。	○ 講演会や研修に少しでも参加できるよう、柔軟に勤務を調整していきたい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談はケアマネージャー・管理者が行うが、必ず担当ユニットの職員にも申し送りがある。相談の際は、本人のニーズに耳を傾けている。	○ 今後も相談があれば、職員間で連携をとり、本人のニーズや必要な情報を把握していきたい。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	上記同様に担当職員が、家族の気持ちは受け止める努力をおこなっている。ユニット内職員も入居時は特に家族の話は聞くよう努めている。	○ 今後も家族の話に耳を傾け、必要な情報を得て、ケアの充実化に活かしていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	管理者・ケアマネージャーが行っている。	○	今後も継続して行っていく。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	急に入居するのではなく、事前に見学に来てもらったりと配慮している。本人の生活歴・性格等を配慮しつつ、家族とも相談しながら、落ち着き、安心できる生活の場を作るよう支援している。	○	今後は、ショートステイのように少しずつ泊まりながら、ここの生活に徐々に慣れてもらうようにしていきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	生活の中で出来る事があれば一緒に行き、余暇を楽しみ、時には笑ったり泣いたりケンカしながら、人生の先輩として家事のコツや料理等を教えてもらっている。	○	今後も、共に寄り添いながら、家族のような関係をつくっていききたい。
28	○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族からの一方的な要望が多い様を感じるが、中には面会時に通院の依頼等をするとそれに対し、すぐに手配して下さる家族もいる。	○	花見や夏祭り等の行事に家族も参加し、楽しい時間を共有できるようにしている。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人が家族との電話を希望される時には、すぐに対応している。また、通院や面会等の機会が多く、家族との交流やコミュニケーションも多く取れていると思われる。	○	家族会や行事のボランティア等を通し、更に家族との連携をとりながら、本人と家族の関係をよりよく維持できるよう配慮していきたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔参加していたコーラスグループに行ったり、自宅の庭へ草取りに行き近所の人と会話したり、馴染みの場所・人とのつながりに対し配慮している。	○	今後は、更に本人の生活歴をしっかりと踏まえ、「馴染み」に対する支援に力を入れていきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	争いが起きない様、職員が間に入り、緩和剤の役割をするように努力している。	○	一人ひとりの性格・生活歴を踏まえ、孤立することのないよう今後も配慮していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	他の施設へ移ってしまわれると、継続的な関わりは難しい。	○	継続的な関わりを必要とする利用者や家族があれば、今後取り組んでいきたい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメント・モニタリングを通して日々努力している。（日常も観察・会話を通し把握するよう努力している。	○	今後も職員本位の介護にならない様気をつけ、利用者本人が生活者であることを頭に置き、利用者本位となるようにしていく。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者本人や家族から生活歴などを情報収集しているが、完全にはできていない。	○	生活歴の把握に努め、「馴染み」に対する支援に力をいれてきたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者一人ひとりの様子を観察し、職員同士の声かけと情報交換を行っている。	○	今後は心身の状況に応じ、的確な対応が素早くできるようにいく。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	1ヶ月に一度カンファレンスにて話し合う機会があり、職員一人ひとりが意見を出し合える時間がある。それぞれの意見・アイデアをまとめ介護計画が作成されるように努力している。	○	担当職員が日々の生活からニーズを引き出し、より利用者本位の介護計画となるようにしていきたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	見直しを3ヶ月に一度行っている。なかなか見直しの前の話し合いが出来ていない。	○	モニタリング・カンファレンスの話し合いの時に、話し合いに加わっていない職員が一部いるため、全員が意見を言えるような話し合いを行ってきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	現在、しっかりとした個別記録記入が行われていない。職員個々の書き方をしているので、介護計画の見直しに活用できていない。	○	介護計画に添った記録の書き方の検討を、今後記録検討委員会にて話し合い、介護計画の見直し時に活用できるものにしていく。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族との外泊や、家族からの要望になるべく対応できるよう努力しており、行事等を行う時に他ユニットとの交流も図っている。	○	今後も継続して行っていく。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	夏祭りに向け、踊りや歌の地域のボランティアが来て、利用者や職員へ教えて頂いている。民生委員の方は、運営推進会議にも出席されている。	○	利用者一人ひとりに合った、ボランティアを探し、より地域との密着性を高めていきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他地域のコーラスグループに入り、家族の協力により参加している。他のサービス事業者の情報は入ってきていない。	○	他のサービス事業者との情報交換の場を設け、他のサービスを利用できるよう支援していきたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	ユニットの職員は、直接関わっていない。	○	地域包括支援センターと関われる機会を設け、今後連携をとっていきたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	週に一度の往診又訪問看護師の指示に従い、家族の希望に沿って支援している。	○	今後も医師・看護師との連携をはかり支援していく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	家族が利用者と共に受診又は、職員が利用者と共に専門医に定期的に受診している。	○	今後も継続して、専門医に受診できるよう支援していく。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	週に一度訪問看護師による日常の健康管理を行っている。	○	今後も看護師との連携をはかり支援していく。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	管理者並びにケアマネジャーが医療機関と連携をとり、ユニットに報告している。	○	今後も、入院した場合には医療機関との連携を密に行なっていく。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期のマニュアルは会社で作成されている。しかし、終末期の介護の機会が現在は無い。経営者側が職員に対し終末期の介護について研修を行っていない為、職員は終末期の介護に対する覚悟ができていない。	○	経営者側に終末期の介護についての研修を行なってもらい、実際にいつ終末期の介護が開始しても良いよう、知識や心構えをしておきたい。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度化した利用者に対し、精神的支援は不可能ではないが、身体的・医療的支援はまだまだ医療との連携が十分ではない。	○	今後、重度化・終末期に向け、利用者本人・家族等の意向を事前に伺い、チームで意向の実現を目指していく。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	別の居所へ移るとい事は、医療的な面のケアが必要な場合病院などへの転移が多く、長期居住の利用者が多く、住み替えによるダメージという問題は少ない。	○	今後、別の居所への転移があった場合、利用者本人・家族のことを配慮した対応を検討していく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	洗濯物を届けたり掃除の開始時に、本人が不在の居室に入る際は必ず職員全員が本人に声をかけ、入室している。記録は、他利用者の目にふれないよう配慮している。	○ 一人ひとりのプライバシーやプライドを傷つけないよう配慮したこと言葉かけに更に注意して、日頃の介護を行なっていきたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	なるべく働きかけるようにしていきたいが、共同生活の場ということもあり、また認知症という疾患を強く持たれている方も多し、すべての思いや希望を汲み取った介護は行えていない。	○ 一人ひとりの思いや希望を、より深く理解し、その人に合わせた支援となるようにしていく。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の希望を、極力優先にするよう心掛けている。しかし、介助の必要な利用者によく関わってしまい、一人ひとりの希望に沿った日々の介護が行なわれていない。	○ 身体介助の少ない方に対しても、関わる時間を設け、精神的ケアにあてていきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	朝の起床時等、一部の方は服を選んでもらい、入浴後もその人に合わせた身だしなみの介助を行っている。理美容等は、日にち・お店を希望に応じて行くことができるようにしている。	○ 一部の利用者には、外出時や特別な日に、お化粧の手伝いを行い、おしゃれをして出掛けてもらえるよう配慮している。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者個々の力を考慮しつつ、その方に応じた調理・食器洗い・食器拭きを、会話や歌などを歌いながら、楽しい雰囲気で行なっている。	○ 今後は、まだ出来るのに現在行っていない事を、日々の生活から探り、調理で行なえる事の幅を広げていきたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	お酒・タバコを嗜好される利用者は現在いない。しかし、おやつ・飲み物は好まれるものを、多めに注文している。	○ おやつ・飲み物は一人ひとりが好きなものを選べるようにしていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄表を記入し排泄パターンをつかみ、オムツ類は、本人に合うものを提供している。便秘の利用者に対し、10時・15時に寒天を提供し、便秘改善に努めている。	○	便秘改善に今後も力を入れていきたい。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	職員の都合で時間等を決めてしまうことが多い。入浴時は、話に耳を傾け、歌等を歌ったり、ゆずやみかんの皮を浴槽に入れたりと香も楽しめるよう対応している。	○	利用者本人の希望に応じた入浴日・時間を柔軟に対応できるよう改善していく。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	利用者一人ひとりの生活リズムに合わせ、就寝・起床時間を決めていない。自宅での生活を重視し、布団を使用されていた方は、ベッドでなく布団を使用してもらっている。足の浮腫みのある方は、昼食後に30分程度横になり、休息をとってもらっている。	○	今後も、快適に睡眠ができるよう、一人ひとりの住環境や寝具に関しアセスメントを行っていきたい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の準備・片付けや洗濯物干し・畳み、掃除等を本人の能力に合わせて役割を行ってもらっている。利用者は、積極的に行っており、職員が声を掛ける前に自ら活動されることもある。職員は、本人の気持ちを配慮し、無理強いはいしないよう行っている。	○	現在の役割以外にも、まだ生活の中で行える事は無いか、考察しながら日々の介助を行っていく。また、本人の負担とならないよう配慮しながら行っていく。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者が希望すれば、職員が付き添い預かり金より支払いをしている。	○	今後は、利用者の能力に合わせ、支払いを本人が行えるよう支援していく。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近隣には、散歩・散策に適した場所が多く、環境に恵まれている事から散歩・外出は実施されている。遠方の外出は、会社の車両を利用した遠足や外食の支援も行っている。	○	今後も散歩や外出支援に力を入れていきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	利用者が行きたい場所へ行けるよう、極力柔軟に対応する努力はしているが、全ての利用者の行きたい場所への外出は、なかなか実施できていない。	○	行きたい場所への外出に向け、その場所の下調べをしつかり行き安全に外出支援できるようにしていく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望に応じ電話のダイヤルを押し介助しながら電話を使用してもらっている。手紙等は、切手やはがきを職員と買いに行き、ポストまで歩いて出しに行っている。	○	今後も、利用者一人ひとりに合わせ、自由に家族や友人等と連絡がとれるよう支援していく。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族・友人等に自由な時間に入出入りして頂き、お茶などを飲みながら、居室やリビング等の好きな場所で、ゆっくり過ごしてもらっている。	○	今後も自由に訪問して頂けるよう、来所しやすい環境作りに力を入れていきたい。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	転倒や事故の無いよう配慮しながらも利用者の自主性と尊厳を奪うことなく、あたたかく見守る姿勢でケアに取り組んでいる。	○	今後も事故の無いようアセスメントしながら、本人の行動を制限してしまわないよう配慮しながら支援していきたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	自由に利用者が出入りできるよう、1階玄関の鍵は夜間以外かけていない。(夜間は防犯を目的として)	○	今後も、鍵をかけることは行わない。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	夜間は2時間おきに巡視を行っている。昼間は、利用者の居場所を把握し、居室は様子を見に行っている。	○	今後も昼夜共に、安全確認を徹底していく。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	異食の危険のある利用者に対しては、職員が行動を見守り極力制限をしないよう配慮して支援している。	○	今後も、物を排除するのではなく職員の見守りで、危険を防ぐようにしていく。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	「ひやりはっと」の書式を事故対策委員会で検討し、書きやすくすることで、大きな事故を事前に防ぐことができる。また、事故の分析を行い、対策を具体的に上げ、再発防止に努めている。	○	今後も事故の再発防止に対し、事故対策委員会を中心に徹底していく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	今までは、職員の意志に任せ、個々で救命講習を受けていた。	○	7/29・8/6に研修委員会が中心となり、救命講習を開催し、職員一人ひとりの知識・技術向上をはかっていく。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災対策委員会を中心に、年2回防災訓練を実施している。地域の訓練にも利用者・職員が参加し、避難場所への経路の確認を行っている。	○	今後も継続して行っていく。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	利用者と共に生活のパートナーとして過ごせるよう心掛け、カンファレンス・ミーティングで対応等を話し合っている。家族への手紙等で毎月の生活や体調の変化を、家族へ報告している。	○	今後も、話し合いを継続し、家族への報告も随時行っていく。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	体調の変化や異変があった時は、バイタルを測定し、速やかにホーム長・医師へ連絡を取り、指示に従い対応を行っている。また、情報は、職員間で申し送り共有している。	○	今後も日頃の状態を把握し、状態の変化に出来るだけ早く気付き対応できるようにしていく。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	現在、職員によって理解度は差がある。	○	今後、理解の徹底をし、服薬の重要性について職員が意識できるようにしていきたい。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎日10時・15時に寒天を提供しており、散歩やモップかけ等の活動を日々の生活の中で行えるよう支援している。	○	今後も継続して寒天の提供を行い、その他にも行える事を検討し、実施していきたい。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、お茶を使用したうがいをすすめ、ICUブラシを使用して口腔ケアを行っている。また、舌のケアも行っている。	○	今後も継続して行っていく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの水分量をチェックし記録して、不足のないよう支援している。寒天にて、水分の不足している方へ提供し補っている。また、糖尿病等の疾患のある方には、食事に対し特に配慮している。	○	水分不足・水分過多に配慮しながら、便秘の人などの水分量の確保も行っていく。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	インフルエンザ・ノロウイルスの多発する時期は、感染症対策委員会で発生時の対処方を確認し、職員へ伝えている。感染症のある利用者は、個人ファイルに印を付け、一目で分かるようにしている。	○	まだ、各職員にまで対処方等が行き渡らない事もあり、今後も感染症対策委員会を中心に、感染症の予防と対策の情報及び実施の徹底を行っていく。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材は賞味期限を重視し、調理して二時間で廃棄している。また、まな板・包丁は使用前に必ず熱湯消毒後に使用している。更に、夜間帯にピューラックスで毎日消毒を行っている。	○	季節により、生ものや加熱しにくいものの使用は、安全を考慮し避け、食中毒を予防していく。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	ホーム前には、いつでも来客者がみえても良いように、駐車スペースを用意してある。	○	気軽に近隣の方が訪問しやすいよう、玄関等の工夫をしていく。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	昼間と夜間の照明を使い分け、時間の感覚がわかりやすいよう配慮している。職員は、遠くからの大きな声かけをせず、利用者の精神的ストレスとならないように行っている。	○	今後、季節感のある空間作りに力を入れていきたい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	現在、共用空間には独りになれる空間はないが、それぞれの利用者の思い思いの事をされ、過ごされている。また、独りになりたいときには、居室にて過ごされている。	○	共用空間における一人ひとりになれる空間への取り組みは行われていない為、今後検討していく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用されていたタンスやテーブル・仏壇等自由に持ち込んで頂いている。出来る限り、自宅と同じように畳での生活の方は畳を使用してもらっている。	○	利用者が自宅でどのように暮らしていたかを、家族や本人から情報を集め、より自宅での生活に近付けた環境整備を行ってきたい。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	窓を開けて自然の風を入れたり、暑さ・寒さの厳しい季節にはエアコン等で室内の気温を調整している。	○	エアコンを入れている時に、職員と利用者の不快を感じる温度に差があることを理解し、職員本位で室温調節を行わないよう配慮してきたい。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴室の浴槽は家庭と同じ物を設置しており、自宅と同じように入れるよう、また、自宅に帰っても困ることのないよう配慮している。廊下や浴室・トイレ等に手すりが設置しており、つかまりながらも歩行してもらい、歩いての生活の維持ができるよう支援している。	○	今後も、自立した生活を目指し、工夫とアプローチの方法を検討してきたい。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	例えば調理の時は、ひとつひとつの工程をゆっくり伝え、一緒に行い混乱を予防している。また、失敗の経験をして自信を失うことが無いように、その方の確実にできる事を検討し支援している。	○	今後は、認知症の進行状況に合わせた支援ができるよう、職員間で話し合い、随時変更を行っていく。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	外の庭にて、天気の良い日にはおやつを食べている。	○	外の庭を、その他にも使用できる機会はないか検討していく。

V. サービスの成果に関する項目		
項目	最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
	<input checked="" type="radio"/>	②利用者の2/3くらいの
	<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいの
	<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
89 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある
	<input checked="" type="radio"/>	②数日に1回程度ある
	<input type="radio"/>	③たまにある
	<input type="radio"/>	④ほとんどない
90 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
	<input checked="" type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
91 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
	<input checked="" type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
92 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
	<input checked="" type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
93 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
	<input checked="" type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
94 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
	<input checked="" type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
95 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と
	<input checked="" type="radio"/>	②家族の2/3くらいと
	<input type="radio"/>	③家族の1/3くらいと
	<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている		①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
		○	③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

家庭的な雰囲気大切にしながら、日々の介護を行っている。また、各種委員会やミーティングでは職員の意見が多数飛びかい、議論されている。